



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

三つの文庫

国語科 小吉祥子

夏季悠学講座が終了した8月4日。照りつける日差しの中、気温は30度を超え、この鹿児島でも新型コロナウィルスの感染者が急増し不要不急の外出は控えなければならぬ状態だ。多くの部活動が校外で活動しているのだろうか、校内はひっそりとしている。ただ悠学館だけは学習に勤しむ生徒で賑わっている。中には返却図書の本を整理している図書委員やソファに座り本を読みふけっている生徒もいる。穏やかな時間を満喫している姿は素敵だなどつい見入ってしまった。

悠学館では、生徒、職員からのリクエスト本や様々な賞を受賞した本などを中心に配架しているが、それらの本と一線を画す書棚がある。それは「一鶴文庫」「中原文庫」「山元文庫」の三つの文庫である。西側壁面にある「一鶴文庫」は、本校の卒業生が執筆した書籍が並ぶ。東側壁面にある「中原文庫」は在学中に亡くなった中原清英さんのご遺族から頂いたご寄付で購入した個人全集などが並んでいる。そして雑誌書棚近くにあるのが「山元文庫」だ。海堂尊や南木佳士、帯木蓬生の文庫本が並ぶ。

「山元文庫」は平成元年〜15年、その後18年〜令和2年の約30年間、本校で教鞭を執ってこられた山元郁夫先生が、ご自分で選書され、配架する書棚も直接家具店に足を運び購入、設置なさったものだ。残念ながら先生は昨年12月に急逝なさったが、この文庫の完成を心待ちになさっていた。先日、先生の奥様にお話を伺う機会があったので、先生がどのようなお気持ちで設置なさったのかお聞きしてみた。すると、

「（先生は）母校鶴丸で30年もの長い年月をすばらしい先生方、すばらしい子どもたちと過ごす日々を、この上なく幸せだと喜んでいました。いつも感謝の言葉を口にしていました。その思いを何かの形で伝えたいということで本を贈ることになったのだと思います。」

悠学館司書室には、ほかにも配架してない先生から頂いた書籍が沢山ある。国語の専門書だけでなく、文芸書、図鑑、全集などそのジャンルは多岐にわたる。「山元文庫」を設置するにあたり、先生は改めて文庫本を購入された。それは毎日重たい靴を持ってくる鶴丸生が手に取りやすいようにとお考えになったからだ。実は今でも、奥様が本を贈り続けて下さっている。奥様は、

「一生前選んだ本の中には、まだ文庫化されていないものもあるので、発行され次第また持ってきてみます。鶴丸高校への思いを伝えていきたい。」

最後に、昨年の学力検討会で山元郁夫先生がおっしゃった孔子の言葉を紹介しておきたい。

「今、汝は画（かき）れり」これは、自分の力では無理だといって挑戦するのを諦めようとする弟子冉求（ぜんきゆう）に、孔子が、自分自身に限界を設けて、言い訳をし、全力を尽くすことから逃げていたと諭した言葉だ。山元先生は常に鶴丸生の可能性を信じて、さらなる高みを目指して挑戦してほしいと願っていらっしやうののだと思う。

本は友人だとか宝だとか言われるが、この悠学館の本が、みなさんの背中を押したり、進むべき道を示してくれたりするかもしれない。「一鶴文庫」に本を寄せて下さっている先輩方も、「中原文庫」の中原清英さんのご遺族も、「山元文庫」の山元郁夫先生も、「鶴丸生のために」と贈って下さっている。

韋編三絶という言葉がある。孔子が『易経』を愛読して繰り返し読んだため、革のと同じひもが何度も切れたという故事に由来している言葉だ。製本技術の発達した現代において、韋編三絶なんてなかなかできることではないが、多くの鶴丸生が手に取って読んでくれたらできるかもしれない。大事に読み継いでいくことが、贈って下さった方々への思いに報いることになるのではないかとと思う。

コロナ禍で外出もままならない時期だからこそ、読書を通して新しい世界を楽しんでみてはどうだろうか。

9月の行事予定

Table with 5 columns: 日, 曜日, 行事, 校時, 学食. It lists school activities from September 1st to 30th, including classes, exams, and sports events.

8月31日（火）時点における予定です。今後、変更があるかもしれません。



悠学館の一角にある「山元郁夫文庫」

2年ぶりの中学生一日体験入学

8月2日（月）・3日（火）、中学生の一日体験入学が行われました。昨年度はコロナ禍の影響で実施することができませんでしたが、今年度は感染防止対策を万全にした上で、県内外83の学校から670人の中学生が参加しました。3密を避けるために、例年行っていた体験授業や保護者説明会を行うことはできませんでしたが、両日とも2つのグループに分け、「生徒会による学校紹介」「放送部が作成したDVDの視聴」「卒業生による体験談」「校内施設見学・部活動見学」を、順番を入れ替えながら行いました。校内の施設見学や部活動見学では、さらに少人数のグループに分け、生徒会執行部とボランティアで参加した生徒たちが案内人となり、校内の散策と部活動の説明を行いました。参加した中学生は、鶴丸高校の教育への理解を深め、進学に対する意識を高めていきました。



生徒会が校内の施設を案内している様子

定期演奏会が開催されました

8月12日（木）、宝山ホールで第44回定期演奏会が行われました。今年度は、来場者を県内在住者に限定し、入場者数を制限したり、マスク着用や手指消毒の徹底など感

大会結果報告

放送部 第68回NHK杯全国放送コンテスト ラジオドキュメント部門 準優勝
百人一首部 第43回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会 個人戦D級4位 芹ヶ野愛梨 (24R)
第45回全国高等学校総合文化祭 競技の部 奨励賞 野添美依奈 (28R)
文芸部 第45回全国高等学校総合文化祭 文芸・短歌部門 互選賞 小嶋 友紀 (35R)

弁論 第45回全国高等学校総合文化祭 弁論部門 第6位 (優秀賞) 大坪 亮介 (33R)

フェンシング 全国高等学校総合文化祭 弁論部門 フェンシング競技 サンプル 第2位 高山幸大 (32R)

音楽部 第76回九州合唱コンクール鹿児島県予選 金賞 (9月10日) 九州大会出場



ミュージカル「レ・ミゼラブル」の一場面

染対策を十分にしながら開催しました。「alive」というキャッチフレーズのもと、音楽部、吹奏楽部コンクールステージの堂々とした演奏、ポップスステージの若さ溢れる演奏やパフォーマンスが会場を盛り上げました。また、特別ステージとして、授業で鑑賞したミュージカル「レ・ミゼラブル」のステージも行われ、音楽選択者有志と音楽部による、独唱、重唱、合唱など個性豊かな音楽表現が繰り広げられました。演奏会の最後は、吹奏楽と合唱で演奏された「いのちの歌」のやさしい歌詞と旋律が会場を包み込みました。